

## 報 告

## 第 30 回リハビリテーション工学カンファレンス in おきなわ

沖縄リハビリテーション福祉学院 作業療法学科学科長 金城 知子

## 1. はじめに

去る平成 27 年 11 月 13 日(金)～15 日(日)、沖縄県総合福祉センターにて、第 30 回リハ工学カンファレンス in おきなわが「技のちゃんぷる～御万人(うまんちゅ)を支えるテクノロジー」をテーマとして開催、264 名が参加されました。

## 2. 事業概要

- 発表は、23 セッション 119 演題が発表されました。

インタラクティブと学生セッションを加えて 119 演題でした。当事者の発表がスムーズに出来るように努力しました。

- 公開講座

開会式の後、植田啓一医師〔沖縄美ら島財団 獣医師・博士(獣医学)〕に「水族館における獣医師の役割(イルカの QOL 改善を中心に)」というテーマで講演いただきました。2002 年に 75% の尾鰭の欠損となったバンドウイルカの人工尾鰭の開発とそれを装着しての遊泳訓練を展開した話を中心で、対象が動物ではありますが、リハ工学の支援に通じるものがあると感じました。

- SIG 基礎セミナー

今大会の特色でもある企画で、このカンファレンスをあまり知らないでいる沖縄のリハ工学関係者のために、SIG (Special Interest Group) が『基礎セミナー』としてカンファレンス日程内に集中開催してもらいました。各会場に大勢が参加されました。

- 交流会

2 日目終了後、学生発表の優秀賞表彰、参加者同士の交流等で盛り上がりました。沖縄創作エイサーも披露されました。終了時刻より、大雨洪水警報発令、バスが渋滞に巻き込まれ、多くの参加者が帰宿困難となりました。1 時間後警報解除、無事帰宿、予期できないアクシデントでした。

- ランチタイムコンサート

2 日目のランチタイムに沖縄の我如古盛健さん率いる「ケントミファミリー」のミニコンサートが催され、進行性疾患の西平さんの「三線を奏でたい」思いに応え、琉球大学電子工学科が協力開発した三線ロボで、三線を持たずして演奏・歌唱され、感動的だったと思います。

## 3. おわりに

沖縄という遠路であること、また、アクセスがよくないことを考慮し、台風の影響の無い 11 月開催としました。また、電動車いすの方や手助けの必要な方を予め把握し、シャトルバスやリフトバスを個人に合わせて手配する努力をしました。『どのような方も同じように参加できる』ことを目指し、結果、多くの参加者に便利だったとの言葉をいただきました。

また、他府県からの参加者の方には、沖縄の頑張っているところを見てもらえたのではないのでしょうか。今回のカンファレンスは、沖縄のリハ工学関係者に良き刺激となったと思います。

今回の開催で繋がった方達とともにリハ工学の取り組みを継続していきたいと考えています。

沖縄リハビリテーション福祉学院  
〒901-1393 沖縄県与那原町字板良敷 1380-1



演題発表



セッション会場の様子



公開講座



SIG 基礎セミナー



SIG 基礎セミナー



ケントミファミリー「ミニコンサート」



創作エイサー



開会式